

Ⅱ 事例研究

2 青少年の参画を目指す活動事例

見つめよう！地域から世界を ～栃工高国際ボランティアネットワークの取組～

生徒会が中心となって、工業高校生の技術を生かした車いすの修理・寄贈、タイでのボランティア活動など、たくさんの人と手をつなぎながら広範な取組を展開
関わっている人〈高校生、大学生、青年、成人〉



☆活動名 実践してみよう！地域と世界をつなぐボランティア活動を

【活動の趣旨】 明日の地域社会と世界に貢献できる「心豊かな技術者」をめざして、①校内福祉啓発活動 ②交流教育活動 ③福祉機器製作活動 ④国際交流活動の4つを柱に、工業高校の特性を生かした活動を続けている。

【連携】 国内外のさまざまな機関と手をつないでいる。



【対象・人数・条件】 栃木県立栃木工業高等学校全生徒 718名

【始めるきっかけ】 栃木県立栃木工業高等学校では、昭和60年代から工業高校の特色を生かし、中古の車いすの修理・再生活動を始めた。創立30周年記念事業の一環としてタイ王国での車いす修理ボランティア活動を開始し、今年で15年目。平成11年には生徒会を中心に「栃工高国際ボランティアネットワーク」として整備され、現在、地域から世界に向け、ローカルとグローバルが上手に融合された活動を展開中である。

【広報のしかた】 募集は、市の広報誌、市立図書館、各小中学校、そして会員の口コミを通じて行っている。さらに、KLV協会のホームページがあり、その中でも広報している。

【活動内容】 ①「空飛ぶ車いす」活動

県内外の個人や団体ボランティアより善意で寄せられた中古車いすは、福祉機器製作部が中心となって修理・再生され、NGOの人々により東南アジアを中心とした海外へ寄贈されている。この「空飛ぶ車いす」活動は、中古車いすがたすきとなった善意のボランティアリレーで、寄贈台数は平成16年度現在で1,600台を数える。

②「タイボランティア」活動

生徒が直接タイの福祉施設を訪問し、車いすの修理をとおし、国際理解や国際交流を図っている「タイボランティア活動」は15年間でほぼタイ王国を1周した。初めは遠巻きに見ていた施設の人々も、いつしか工具を持っていっしょに修理するようになる。修理を終えた後の「コップン・クラブ」(ありがとう)の言葉は何よりの報酬で、工業高校生の技術は、言葉をこえたコミュニケーション手段となっている。

③「普段着のボランティア活動」ができる環境づくり

生徒会が中心となった地域の養護学校・ろう学校との交流会や福祉講演会・介護体験学習会、福祉機器製作部員が市内独居老人宅を訪問し介護機器をケアする「出前ボランティア」など、全校生徒がいつでも普段着で活動できるメニューがそろっている。

【成果と課題】

生徒自身が自分にあった活動方法を見つけている。近隣の学校等で活動を発表する機会に恵まれ、地域への情報発信ができるようになった。中学生が車いす修理ボランティア活動に参加してくれるなど、活動の輪・サポートの輪が広がっている。また、タイボランティアを経験した卒業生や福祉機器製作部のOBにより「ウエルフェア会」が組織され、これまで培った技術で電動車いす等の介護機器を製作し海外へ寄贈する傍ら、後輩たちの指導をしている。今後、海外でのボランティアについては、タイのNGOからの助言もあり、ラオスやカンボジアなども視野に入れた活動を考えている。

☆これから始める人へのメッセージ

力まないで普段着で、できるときに、できることから始めよう！

栃工高国際ボランティアネットワーク代表者 経沼 真澄 (平成16年度生徒会長)

所在地 〒328-0063
栃木市岩出町129番地 栃木県立栃木工業高等学校内

電話/FAX 0282-22-4138 / 0282-22-4146

E-mail info@tochiko.ed.jp

URL http://www.tochiko.ed.jp/

